

Monthly Report

Vol.146 / 2018 JUN.

商工会女性部定例研修会にて遠藤学長が講演を実施



遠藤学長と柴田町商工会大槻裕喜会長と商工会女性部役員の方々と記念写真

6月28日(木) 10:30～商工会女性部仙南地区連絡協議会平成30年度定例研修会が本学で行われました。初めに商工会女性部仙南地区連絡協議会の相澤きよの会長より開会の挨拶があり、来賓として柴田町商工会大槻裕喜会長が挨拶。次いで柴田町商工会船山良子部長からの感謝の言葉の後、遠藤学長が「オリンピックのロマン～2020年を迎えるにあたって～」と題して講演しました。2020東京オリンピックの特徴、テロや暑さ対策などの課題について触れ、古代オリンピック、近代オリンピックと歴史を振り返りつつ、「1964年東京オリンピックでは根性が大切と言われ、気持ちだけが先行していたスポーツの時代から、Discover Tomorrowをテーマとする2020年東京オリンピック・パラリンピックでは科学的トレーニングや動作解析、情報分析と戦略、栄養と休養などの科学の粋を集めた競技の取り組みが必要となり、いまや科学と科学が戦う時代となりました。そこにロマンがあります。」と熱く語りました。

また遠藤学長の講演後に松浦新助手の指導の下、ストレッチや「グーパー運動」や「指先体操」といった頭と体を使った体操を行い、今回参加された約70名の参加者の皆さんからは常に笑いや拍手が起こり、大いに盛り上がりました。



講演する遠藤学長の様子



健康体操を行う松浦新助手

〈目次〉

・商工会女性部定例研修会にて遠藤学長が講演を実施	1
・「東京おもちゃショー2018」に出展 ・村山蔵王町長と竹泉荘の方々が来訪されました。	2
・平成30年度みやぎ県民大学開放講座 ・楽天イーグルス広報マネージャーの講義を行いました。	3
・第2回仙台大学・学内アスレティック・トレーナー・プログラム認定証書授与式を開催 ・学会「平成30年度新任教員発表会(第96回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会」	4
・三宅義信氏文化功労者受章を祝う会 ・根室釧路同窓会・卓球講習会 ・東船岡小学校でレクリエーションダンスを指導	5
・中国瀋陽師範大学来訪体育教育短期研修プログラム ・女子バスケットボール部員たちへの感謝	6
・「留学生日本文化体験ツアー開催」 ・第1回AOFPC(アジア・オセアニアフットボールカップ)3位入賞	7
・第52回東北大学バレーボール男女リーグ戦男子バレーボール部2季連続の優勝 ・第26回北海道・東北高等学校体育学・コース連絡協議会総会研究大会について	8
・台湾からの留学生、呂蔡 瑜倫(ローサイ ユーリン)さん ・今年も恒例の学科一日体験会が開催されます。	9
・「高校スポーツの安全を守る」	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



おもちゃショーの様子①



おもちゃショーの様子②

「東京おもちゃショー2018」に出展

「東北こども博」の特別協力先である一般社団法人日本玩具協会が主催する「東京おもちゃショー2018」が、6月7日～10日（一般公開は9日と10日）の日程で東京都江東区有明の東京ビッグサイトにおいて開催されました。これは国内外のおもちゃを一同に集めた展示会で、一般公開日の来場者は2日間で141,139人という盛況ぶりでした。その中で子ども文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に、今回で6回目となる本学のブースを出展しました。

今年は、スラックラインとバランス平均台を展示し、本学ブースを訪れた家族づれにそれぞれ体験をしてもらいました。中にはスラックラインをテレビで見たことのある方やすでに経験した方もいらっしゃり、子どもから大人まで、本気になって取り組む方々にぎわい、本学ブースの推定来場者は2日間で2,000人～2,500人に上りました。実にたくさんの方々に来場いただき、常にスラックライン体験を待つ行列が絶えることなく閉場を迎えました。また、出展社のほとんどは玩具メーカーや卸業者、遊興関係者で、学校の出展は本学のみで、「来場者の中にはなぜ大学が出展しているのか」との質問も多数ありましたが、日本玩具協会との協業によりこども博を開催していること、そのつながりから出展を続けていることを説明し、大学がそのような活動をしていることに驚きを感じている方もいらっしゃいました。このような幅広い本学の活動に対し、大山さく子センター長、高崎義輝学科長、スラックライン部学生スタッフ5名のご協力により多くの方々にPRができたものと確信をしております。

<報告：学生支援室 近江康宏室長>



来訪された村上蔵王町長・竹泉荘の方々との記念写真

村山蔵王町長と竹泉荘の方々が来訪されました。

6月6日（水）、ホストタウン事業を展開する蔵王町長とともに竹泉荘オーナーの李社長、村井総支配人が本学に来訪しました。村上蔵王町長はパラオと東京オリンピック事前合宿の招致を蔵王町で行うことと、本学は施設利用を通じての支援をそれぞれ約束しています。朴澤理事長・学事顧問との会食後、李社長を含む中国関係者7名、村上蔵王町長を含む蔵王町関係者6名が遠藤学長を表敬訪問し、馬准教授や留学生の金瑞年（現東北大大学院）とともに本学施設を視察しました。

<報告：学生生活室 渡邊一郎室長>



開講式での学長挨拶の様子



講義の様子①



講義の様子②



閉講・修了書授与の様子

平成30年度みやぎ県民大学開放講座

5月11日（金）～6月1日（金）の期間で毎週金曜日、全4回の講義を健康福祉学科の先生方が担当しました。今年度のテーマは「百歳まで歩く！転ばぬ先の筋肉運動のすすめ！」です。今回、初めてこのような開放講座を受講するという方も多量中、本学の施設を使用し、楽しい運動や講義と充実した時間を過ごされました。受講者の方からは「学生と一緒に運動をしたことが楽しかった」や「人生百年時代にふさわしい内容だった。百歳目指して頑張ります。」などの声が聞かれました。

全4回の講義は以下の内容で行われました。

- 第1回目：「加齢に伴う筋肉の変化について」 笠原教授・・・5/11（金）
- 第2回目：「楽しく身体を動かそうー1」～レクリエーションで筋肉の活性化～ 小池教授・・・5/18（金）
- 第3回目：「楽しく身体を動かそうー2」～正しい歩き方で筋肉の活性化～ 高崎教授・・・5/25（金）
- 第4回目：「身体を動かすことの大切さ」 橋本教授・・・6/1（金）

全4回の講義のうち3回以上出席した受講者には、最終日の閉講式にて青沼副学長より修了書が授与されました。

<報告：事業戦略室 鈴木美生>



授業の様子

楽天イーグルス広報マネージャーの講義を行いました。

スポーツ情報マスメディア学科の発展科目である「スポーツ広報論」（担当：池田敦司教授）において、6/18（月）は株式会社楽天野球団 広報部広報グループマネージャーの村上修二氏にお越しいただき、プロ野球の現場における広報業務の在り方や苦勞をお話しいただきました。特に、監督・選手やマスコミの人々とのコミュニケーションをしっかりとることが最も大事であるとのコメントには聴講した学生も大きくうなづいていました。

聴講した学生からは、「普段会うことのできない特別な方に直接お話を聞くことができ、とてもうれしかったです。自分も将来はスポーツ広報を目指していきたいです。」といった感想もありました。この取り組みは3/15に仙台大学と株式会社楽天野球団で締結したアカデミックパートナーシップの一環として行われており、今後も様々な形でプロスポーツの現場現実の学習プログラムが実施されます。

<報告：池田敦司教授>

第2回仙台大学・学内アスレティック・トレーナー・プログラム認定証書授与式を開催



記念写真の様子

6月12日（火）本学にて、第2回学内アスレティック・トレーナー・プログラム(IC-SUAT.P=Internal Certification to Sendai Univ. AT Program)認定証書授与式を開催いたしました。

遠藤学長の挨拶では、本プログラムの難しさや、専門性確保の重要性、また資格取得後の道のりの険しさなどをお話いただき、その上で大変有意義な活動であると激励のお言葉をいただきました。

AT部部長である朴澤泰治理事長・学事顧問は支えるスポーツの重要性について、自分たちのやっている事を周囲にアピールしていく重要性に触れられました。

2年次からAT部に入学し、初級・中級と同時進行で勉学に励んでいた体育学科3年三浦千穂（みうらかずほ）さんは、「授業と初級・中級の同時受験は、勉強するのが大変でしたが、無事にどちらも合格することができました。これを励みに、これからのAT活動や日本スポーツ協会AT試験に向けて更にごんばっていきます。」とコメントしています。

本プログラムは平成27年度よりアスレティックトレーナー部の学生を対象とし、学生らの知識・技術のレベルを担保する目的で実施されております。平成29年度はIC-SUAT.P初級9名、IC-SUAT.P中級5名、合計14名の学生が認定されました。今年度から上級講座の実施が予定されており、学生らのさらなるレベルアップが期待されます。

<報告:鈴木のみみ助手>



紹介を行う原田健次教授

学会「平成30年度新任教員発表会（第96回学術集会）・総会・新任教員を囲む懇親会」

6月15日（金）16:00～からLC棟1階において「新任教員発表会（第96回学術集会）並びに総会」が開催されました。新任教員発表会は、高橋徹運営委員の司会により進行され、学術会会長である遠藤保雄 学長の挨拶後、早速発表会が行われました。今回の新任教員は、教授（江尻雅彦教員、大宮勇雄教員、原田健次教員）、准教授（日下三男教員）、講師（林直樹教員、佐々木和教員）、助教（小野寺和也教員、川戸湧也教員、久保佳子教員、溝上拓志教員）、助手（船岡アスレティックトレーニングルーム：鈴木のみみ教員・内野洋材教員

・遠藤皓樹教員、仙台大学トレーニングセンター：白坂牧人教員・小野雅洋教員、川平アスレティックトレーニングルーム：白坂広子教員・小野勇太教員・浅野勝成教員）合わせて18名となり、一人5分以内という限られた時間での発表ではありましたが、各教員の自己紹介を含め、研究歴・研究内容、業務内容等についてそれぞれ工夫がなされた発表が行われました。（※大宮勇雄教授及び川平アスレティックトレーニングルームは業務の都合上欠席。アスレティックトレーニングルーム及びトレーニングセンターからの発表は各代表者が発表しました。）

引き続き総会では平成29年度事業報告・収支決算報告（会計監査報告含む）並びに平成30年度事業計画（案）・収支予算（案）の審議があり、すべて承認されました。また、総会終了後には17:40～から管理研究棟2階大会議室において、青沼一民副学長の乾杯の発声のもと「新任教員を囲む懇親会」があり、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤学長出席のもと、教員各位においては有意義な懇談が行われました。

<報告：学術会運営委員会・事務局>



左から2番目、三宅義信氏と記念写真

三宅義信氏文化功労者受章を祝う会

6月3日（日）12：00～東京都の明治記念館において三宅義信氏（村田町出身）文化功労者受章を祝う会が催され、来賓として麻生財務大臣、小池東京都知事、橋本聖子日本オリンピック委員会副会長、竹田日本オリンピック委員会会長、三宅義行（村田町出身）日本ウエイトリフティング協会会長など多数の方が参列され盛大に行われました。本学からは、遠藤保雄学長、ウエイトリフティング部監督として壹岐優新助手が参列しました。三宅義信氏、義行氏とも挨拶を交わし、激励のお言葉をいただきました。三宅義信氏は、挨拶の中で「文化功労者受章は、皆様が私を導いてくれたおかげで皆様がもらったものと一緒であります」と述べ、2020東京オリンピックでは、メダルを獲得させると宣言しました。

<報告：壹岐優新助手>



指導を行う馬濠准教授



根室・釧路支部同窓会の様子

根室釧路同窓会・卓球講習会

6月22～23日北海道中標津スポーツの町宣言30周年記念イベントとして卓球講習会および根室釧路同窓会が開催されました。卓球講習会では、馬佳濠准教授が講師を務め、地域の小・中学生および成人の卓球愛好者約90名に対して指導を行いました。実施内容は基本技術や試合の戦い方などで、指導者および参加者からの質問コーナーも設けられ、大盛況の中終えることができました。参加者一人ひとりが卓球に対する熱意があふれ、一生懸命吸収しようとする姿が印象に残りました。

同窓会には、朴澤理事長・学事顧問をはじめ大河原同窓会事務局長、金賢植講師、同窓生の9名が出席し開催されました。朴澤理事長・学事顧問が仙台大学の現状を伝え、同窓生の方々が昔の仙台大学の様子などについて懐かしく語り合い、終始熱気に包まれました。また、朴澤理事長・学事顧問は標津町長を表敬訪問し、町長は、現在仙台大学のOBが6名も標津町にいて、それぞれの職域で活躍され、仙台大学との結びつきが強いと語っていました。

卓球講習会および同窓会の開催にあたり、尽力して頂いた根室・釧路支部事務局長の林良彦氏（第8期、卓球部）におん礼を申し上げます。

<報告：馬佳濠准教授>



集合写真

東船岡小学校でレクリエーションダンスを指導

～ 18名の学生スタッフが参加～

6月23日（土）東船岡小学校で全校児童328名を対象とした「レクリエーションダンスによるコミュニケーション能力の向上を図るイベント」を学校支援ボランティアとして、本学の学生18名が行いました。このイベントは、本大学の学生が全校の児童にダンスを指導することで、児童同士の信頼関係や、円滑なコミュニケーションのとり方を学ばせるという趣旨で実施致しました。

初めにアイスブレイクで「方向音痴」や「じゃんけん列車」などのレクリエーション後、縦割りで14班に分かれてダンスをしました。本学の学生たちも小学生の関わりを通して、大勢の子どもたちを動かすことの難しさや、子どもたちとの接する上で、表情や指示の仕方などを学んだようです。学生たちがそれぞれの進路や将来の夢を達成するために、子どもたちと関わる機会が学生たちのスキルアップに繋がるよう、今後も支援をしていきたいと思います。

<報告者：学生支援室 大久保成実>



開校式の様子



研修の様子

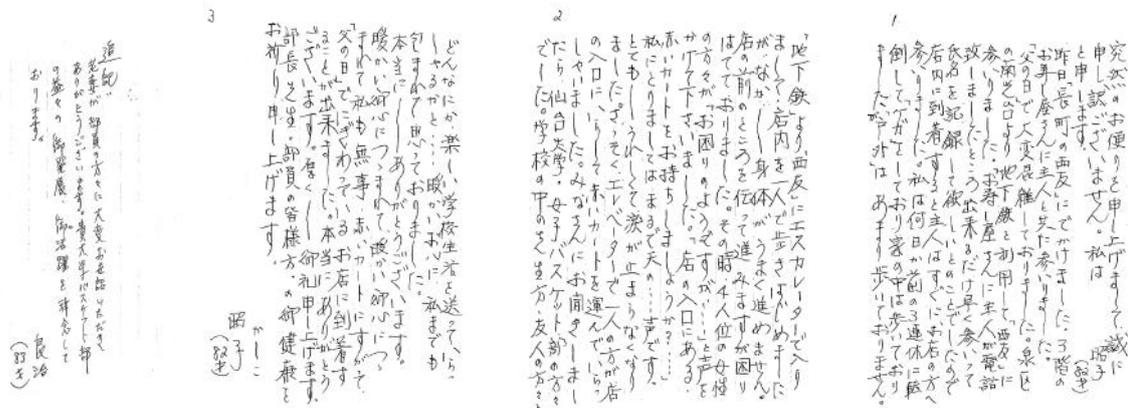
中国瀋陽師範大学来訪 体育教育短期研修プログラム

6月23日～7月2日の間、瀋陽師範大学から3名の教職員および9名の学生が来訪しました。このプログラムは仙台大学との協定10周年記念事業の一環として行われ、今回の参加学生全員が瀋陽師範大学体育科学学院の所属で、ほとんどが体育教師志望であることから、プログラムは幼稚園から小・中・高校での研修、大学でも実技の授業や大学院の授業見学をメインとなりました。文化体験は楽天野球観戦及びこけしの絵付け、また、中国語を勉強している学生たちとの交流を行いました。

参加学生から引率教職員まで、それぞれの施設を見学する際に真剣に説明を聞いたり、積極的に質問をしたりして、熱心に勉強する姿が見られました。また、開講式ではほとんど日本語を話せなかった学生が、10日間の交流で、閉講式の際に簡単な挨拶から感想までも言えるようになりました。閉講式で瀋陽師範大学体育科学学院の李春革書記が「今回は日本の教育制度や方法を肌で感じる事ができて大変有意義な研修になりました。プログラムに尽力頂いた仙台大学の教職員に感謝の意を表します。」参加学生からは、「日本では学力より実践重視の教育方法であり、中国と違うところです。戻ったら日本で学んだことを回りの人に伝えたいです。」と熱く語りました。

瀋陽師範大学とは協定10年目になり、教員間の共同研究、交換留学生等の交流を盛んに行ってきました。今後さらに両大学の交流が深まっていくことを確信しています。

<報告：馬佳濛准教授>



女子バスケットボール部員たちへの感謝

～仙台市在住の方から女子バスケットボール部員たちへ、お褒めの言葉がありました～

6月18日、青葉区在住のご高齢の女性から本学の女子バスケットボール部員に大変親切にいただいたとお礼のお電話及び、後日、同じ方とご主人さまより心のこもったお礼状を頂戴しましたのでご紹介致します。

その方が6月17日、仙台市内のスーパーマーケットで具合が悪くなった際、たまたまそこに居合わせた本学の女子バスケットボール部員たちが異変に気が付き「大丈夫ですか？」と声をかけ「これにつかまって歩くと良いですよ」とすぐにカートを持ってきてくれたそうです。おかげさまで夫婦で無事に帰宅することができました。見ず知らずのわたしのようなおばあちゃんに親切にしてくれた素晴らしい学生さんたちにへぜひ、ありがと伝えていただきたくて、電話をしてしまったのです。と電話口で涙ながらに語られました。

女子バスケットボール部の久能部長よりすぐ、部員全員へ伝えると心あたりのある学生たちは、その方が大事にいたらず帰宅され元気になられたこと。自分たちのささやかな行為がそのように感謝され喜ばれたことに対し、感激していたそうです。

「留学生日本文化体験ツアー開催」

今年度も、本大学客員教授の伊達宗弘先生にご案内いただき、登米市の歴史を通して、日本文化のよさを実感してもらうという趣旨のもと、6月16日に日本文化体験ツアーin登米市が開催されました。今回は、語学支援ボランティアの学生4名にも同行し、教職員、留学生を含む23名が参加しました。

登米市に到着後、国指定重要文化財である尋常小学校へ向かうと、留学生は手動のミシンなど、当時を再現した教室や昔の道具等に変な興味を示しているようでした。昼食後、登米懐古館へ向かい、武具や絵画を真剣な表情で見たり、武家屋敷・春蘭亭では、抹茶と和菓子をおいしくいただきました。又、和を感じるができる室内や庭園を探索して楽しんでいました。一通り資料館を見て回った後に、伊達先生のご自宅を拝見し、登米伊達家に代々伝わる、歴史ある品々をたくさん見せていただきました。



尋常小学校での集合写真



武家屋敷・春蘭亭での一枚

～学生・留学生の感想～

- ・留学生と文化の違いを発見し合えました。日本の教育について深く理解できるため、もっと知ってもらいたいです。（語学支援ボランティア学生 福澤大和）
- ・今回の日本文化体験はとても面白く、仙台地区の歴史を学ぶだけでなく、登米市に行って有意義で楽しい一日を過ごせました。昼の料理や茶道など食べ物もおいしく、伊達先生の家や養蜂場や庭の風景も印象的でした。（台湾 留学生 許 潔）
- ・日本文化体験はとても楽しかったです。特に日本伝統の武家屋敷で抹茶を飲んだのが印象的です。機会があればまた行きたいです。（韓国 留学生 申 原旭）

今回は、あいにくの曇り空で肌寒く天候に恵まれませんでした。古き良き歴史に触れ、昔ながらの街並みを感じ、心身共に良い1日を過ごすことができました。ボランティア学生と留学生も普段とは違った環境での交流のおかげでより仲が深まったと思います。留学生と日本人学生の交流もこのような機会を通し増えれば嬉しいです。

<学生支援室：語学支援担当 富澤光生>

第1回AOF(アジア・オセアニアフロアボールカップ)3位入賞



試合前日本代表の様子

6月17日～6月24日にシンガポールで開催された、第1回AOF(アジア・オセアニアフロアボールカップ)に日本代表として参加してきました。今大会には、本学卒業生の泉幸(平成24年度卒業)と早坂優子(平成29年度卒業)も参加しました。

フロアボールとは、スティックを使ってプラスチックのボールを相手のゴールに入れる得点競技です。アイスホッケーを体育館(フロア)で行うイメージで、コート上は1チーム6人で対戦します。1970年代にスウェーデンで発祥し、フィンランド、スイス、チェコなどではとても盛んです。アジアでフロアボールを広めていくためにも、今回の大会に参加したことはとても意味のあることでした。また、高校生や大学生など今後のフロアボール競技を担う若手の参加で、大きな経験を積むことができたと思っています。また、

6月21日～6月30日に開催されている世界学生選手権大会には本学の

学生も参加していて、今後も仙台大学から選手を輩出できるように今回の経験を活かしていきたいと思っています。

<報告：松浦里紗新助手>

第52回東北大学バレーボール男女リーグ戦男子バレーボール部2季連続の優勝

4月21日～5月20日にかけて第52回東北バレーボール男女リーグ戦が行われました。バレーボールのリーグ戦は年2回、春季および秋季リーグ戦として行われており、男子バレーボール部は昨年の秋季リーグ優勝に続き、今年度の春季リーグも10戦全勝で優勝することができました。新体制となり初めての公式戦となる大会でしたが4年生を中心に、5週間という長丁場を全員の力で戦い切ることができました。

本学男子バレーボール部はS&C(トレーニングコーチ)、AT(トレーナー)、栄養サポート、情報サポート(アナリスト)など学内の専門的な知識や技術をもった多くの方々のサポートを得ながら強化をしており、このようなチームは全国を見渡してもそうあることではありません。この環境に十分感謝をし、今後もこのようなサポート・強化体制を強みにしながら関東1部のチームや西日本などの強豪チームにも勝てるよう練習に励んでいきたいと思います。

今回のリーグ戦にあたり多方面でご協力、ご声援頂きました大学関係者・部活動関係者はじめ、すべての方々
に感謝申し上げます。今後とも応援宜しくお願いします。

試合結果 第1週 予選リーグ

4月21日(土)
対 富士大学 3-0 (25-15 25-18 25-21)
4月22日(日)
対 山形大学 3-0 (25-20 25-22 25-21)

第2週

4月28日(土)
対 東北福祉大学 3-0 (38-36 29-27 25-18)
4月29日(日)
対 福島大学 3-1 (22-25 25-18 25-16 25-16)

第3週

5月5日(土)
対 八戸工業大学 3-0 (25-10 25-18 25-23)
5月6日(日)
対 青森大学 3-0 (25-17 25-22 25-21)

第4週

5月12日(土)
対 東北学院大学 3-0 (25-18 25-19 25-21)

順位決定リーグ(上位リーグ)

5月13日(日)
対 東北学院大学 3-0 (25-20 25-21 25-12)

第5週

5月19日(土)
対 福島大学 3-0 (25-20 25-21 25-16)
5月20日(日)
対 山形大学 3-0 (25-15 27-25 25-20)

10勝0敗(2季連続 優勝)



< 報告 : 中村祐太郎新助手 >



遠藤学長の挨拶の様子

第26回北海道・東北高等学校体育学・コース連絡協議会総会研究大会について

6月29日(金)柴田高校主管で行われている第26回北海道・東北高等学校体育学科・コース連絡協議会総会研究大会の2日目となる研修が行われました。

始めにLC棟にて遠藤学長、入試創職部長の挨拶と入試創職室課長より大学の概要説明が行われ、その後、施設案内として保育室、トレーニングセンター、アスレティックトレーニングルーム、高圧高酸素室、人間環境計測制御室、常圧低・高酸素室を順に見学しました。また前日の研修会では、南條充寿教授による「2016リオ五輪を振り返って一激闘の7日間」の講演

が行われTEAMJAPANを率いて感じたことやリオ五輪を写真で振り返り、最後にトップスポーツの活動と課題を話しました。短い時間ではありましたが、体育大学である仙台大学の魅力が参加された約40名の先生方に十分に伝わる機会となりました。

台湾からの留学生、呂蔡 瑜倫（ローサイ ユーリン）さん ＜男子バスケットボール部＞

6月2日～3日に行われました第39回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会で優勝しました男子バスケットボール部。その中で4月から入学したばかりで優秀賞に選出された、台湾省出身の呂蔡 瑜倫さん（体育学科1年生）をインタビューしました。

Q1.本学に来て3か月が経ちましたが大学生活は慣れましたか？

A. 多少は慣れてはきましたが、日本語はまだまだ難しいところもあり、また寮生活もしているので、台湾が恋しい時も多々あります。

Q2.授業はどうですか？

A. 授業は先生の言葉を理解するまでがすごく大変です。

Q3.部活動はどうですか？

A. バスケットボール部のみんなとバスケットをするのは毎日がすごく楽しいです。

Q4.日本での好きなご飯は？

A. 仙台で食べたつけ麺が一番美味しかったです。

Q5.大学4年間の目標は？

A. 4年間全部で全国大会に出場することです。

Q6.将来の夢

A. 日本でプロバスケットボールプレイヤーになりたいです。また日本の会社に就職したいと考えています。



勉強に取り組むローサイユーリンさんの様子



男子バスケットボール部集合写真

第39回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会

男子バスケットボール部 優勝

- 1) 結果：男子優勝（男子、2年ぶり4回目 [2000年度～]）
- 2) 個人賞
 - ・最優秀選手賞 鈴木 亮也（体育学科4年）
 - ・優秀選手賞 半澤 一貴（体育学科2年）
 - ローサイ・ユーリン（体育学科1年）
 - ・新人賞 郡司 諒（体育学科1年）

今年も恒例の学科一日体験会が開催されます。

毎年恒例となっている学科一日体験会が今年も開催されます。各学科の授業を体験することで仙台大学を知る良い機会です。

● 7月7日（土）

体育学科，健康福祉学科，スポーツ情報マスメディア学科，子ども運動教育学科

● 7月14日（土）

運動栄養学科，現代武道学科

※事前申し込みが必要です。

- ・どんな勉強をしているの？
- ・どんな先生がいるの？
- ・どんな仕事をしているの？

そんな疑問を解決できます。

申し込み・お問い合わせ：入試創職室0224-55-1017

仙台大学HP：<https://www.sendaidaigaku.jp/>



「高校スポーツの安全を守る」Vol.3

今回は、明成高校ストレングス&コンディショニング（以下S&C）指導活動について紹介します。

（担当：浅野勝成）

【S&Cとは】

S&Cとは米国で誕生し発展しているトレーニング科学の専門分野です。S&C指導を行っているトレーニング指導者を「S&Cコーチ」と呼びます。

【S&Cの目的】

第一に傷害リスクの減少が挙げられます。スポーツ中の傷害を完全に予防することは難しく、日々の適切なトレーニングで強い身体を作り、傷害の発生率や重症度の減少を目指します。高校生が部活動に取り組める期間はおよそ2年から3年弱です。長いようで案外短い高校競技において、怪我による長期離脱は大きな痛手となります。チームの主力であれば、怪我による離脱はチーム全体にとっても大きく大きな負の影響を与えます。

第二に身体能力の向上です。トレーニングで向上した身体能力は競技技術の改善に繋がることがあります。ジャンプ力の向上に伴ってバレーボール競技でのスパイクの精度が増すなど、身体能力と技術には密接な関係性があります。しかしながら、身体能力はあくまで競技パフォーマンスの土台であり、「身体能力向上＝競技力向上」とはなりません。培った身体能力を基に競技練習で技術の研鑽に努めることが競技力向上に繋がります。「競技練習だけで必要な身体能力を培えるのでは？」という意見もありますが、競技練習のみで必要とされる身体能力要素に効果的なアプローチをかけることは意外にも難しいものです。例えば、ジャンプやスプリントなどの高い瞬発力が要求されるスポーツが多いですが、競技練習のみで瞬発力の養成を試みても大きな効果は得にくいのです。なぜなら瞬発力の土台は筋力であり、競技練習は筋力向上を目的とした特異的なアプローチにはならないからです。競技練習はあくまで技術やチームワーク等の向上を目指すもので、筋力向上の効果的な手段はウエイトトレーニングです。従って、各競技特性の把握と必要とされる身体能力要素の向上を目指したトレーニングの指導が要求されるということになります。当然ながら、向上させた身体能力を競技技術に活かさない意味がないので、競技コーチとの連携を図ってパフォーマンス向上に貢献できるよう努めています。

【トレーニング内容】

筋力、瞬発力、持久力、柔軟性、協調性などの体力要素の向上を目指して、ウエイトトレーニング、ジャンプトレーニング（プライオメトリクス）、ストレッチ・筋膜リリースを軸として指導を施します。



S&Cが貢献できる要素



※緑の要素が貢献できるもの

【対象者について】

高い身体能力や怪我に強い身体は全てのスポーツの基礎となります。現在は6つの部活動、約100名強の学生を日々指導しています。指導部活動の競技は①女子バスケットボール、②女子サッカー、③男子バレーボール、④陸上短距離・投擲、⑤陸上長距離、⑥スケルトンです。

【高校S&Cの意義】

上述のように、高校生がスポーツに取り組める時間は2年～3年弱と限られます。その短い期間で“結果”を残し、高校生活を有意義にする者、大学やプロチームから誘いを受けて競技者として熟達していく者と様々です。高校生アスリートに対して「適切なトレーニングによって得られる傷害リスクの減少と身体能力の向上」がS&Cコーチが与えられるものであり、高校S&Cの意義と考えています。

次回は、明成フェスティバルのAT活動について（担当：白坂広子）